

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2670600424		
法人名	有限会社 カスタネット		
事業所名	グループホーム カスタネット 2階 秋桜		
所在地	京都市左京区岩倉花園町401		
自己評価作成日	平成27年11月15日	評価結果市町村受理日	平成28年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670600424-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670600424-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年12月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当該ホームは、利用者様本位の生活に基づいた支援に努め、日常生活に様々なレクリエーションを取り入れたり、個人の身体能力の維持や衰えを最小限におさえるために、散歩や体操を組み込んだりしております。また、ボランティアの方に人形劇や紙芝居、生け花等の行事を行っていただき、利用者様の感性を大切に、明るく安全で楽しく過ごせるよう、職員一同努めております。そして利用者様の入居前の生活歴を大切に、その人らしい生活を送っていただけるように温かく支援しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを大切にして、その人らしく生活ができる様に理念に基づいたケアを実践している。また、普段の職務での気付きは管理者に相談し、カンファレンスで情報共有し、理念実践へ繋げる様に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段の散歩から、自治会主催のお祭りや行事の参加を通じて、地域の子供からお年寄りの方々と交流したり、地域の先生を招いて生け花教室や音楽療法等を開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターが企画する認知症支援の為の活動には積極的に参加したり、小学校の校外学習の受け入れ先となり、子供達にも認知症への理解を深めてもらう場を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議では、利用者様の日々の様子や行事、施設運営内容の報告と共に、今後の運営や行事についての意見交換を行っている。また、毎年行われる避難訓練や研修等にも参加していただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方に参加していただき、様々な情報提供やアドバイスをいただいている。また、毎月の地域包括会議にも参加し地域ぐるみでの連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の意思や意向を尊重し自由に行動できる様、居室入口をはじめ日中は玄関・エレベーターは施錠していない。そのため、安全・安心して暮らせる様に、職員が利用者様一人一人をいつも見守っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待に対し正しい認識を持ち職務に励む様、普段の業務は元より、カンファレンスでの話し合いや、社内・社外研修参加を通して虐待防止を徹底している。		

グループホームカस्ताネット(秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門家の方を招いて社内で権利擁護に関する勉強会を行ったり、社外研修に参加し制度についての知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時又は施設内での制度改定の際には、ご家族の方にご理解いただける様に丁寧な説明と十分な質疑応答の場を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会でいらっしゃった際には、ご家族の方に職員が積極的に会話し意見や要望に耳を傾け、カンファレンスで話し合い実践することで反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで代表者と管理者を交え、意見交換をし反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が職務に集中できる様に、職員一人一人の意見や発想を尊重し、やりがいをもち働ける職場環境を作っている。休日も職員皆希望通りに取れる様工夫し、チームワークの徹底を第一に考え、職員同士で意見交換ができる様、年二回の食事会を開催している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤を問わず、社内・社外研修に参加し、レポート提出とカンファレンス内で発表し、全職員が学んだ内容を共有できる体制をとっている。また、全職員が参加できる様に、定期的に外部から講師を招き研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入しており、他施設への交換研修や研修会、連絡会主催の運動会等に参加し、他施設との交流の場を作っている。		

グループホームカスタネット(秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活環境を把握し、利用者様の話を理解し、不安なことをなくしていくことに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様が安心して楽しく過ごされているか、不安をなくし日頃の生活を見ていただき要望に応え話し合い、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス計画書を作りご本人やご家族と話し合い、ご本人に合ったサービスを考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添い見守り、語り合っって触れ合うことで共に生活し、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日頃の生活と体調を伝え、イベントなど写真を付けた広報誌を作りお渡ししている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お部屋に写真を飾ったり手紙を置き、来所の際は一緒にお茶を楽しめる様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲームや物作りを共に行い、家事を助け合い、楽しい談話に笑いがこぼれるように支援に努めている。		

グループホームカスタネット(秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様がお亡くなりになった後、また他のご家族の入所の相談をされたり、これまでの関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活や趣味をご本人やご家族に聞いて、これからの希望を把握して支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からとご本人の日々の話の中から過去の出来事を聞いたり、センター方式等を利用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康状態のチェックを行い、変化に早く気付く様に、食欲や排泄と心身状態を把握し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の希望と日々の生活や健康状態を考え、カンファレンスにて検討し、またご家族に意見をいただき作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人の様子は個人ケース記録や連絡ノート、健康管理表へ記入することにより、全職員が把握する様にしている。ケアの実践の中での気づき等はモニタリング後、カンファレンスで話し合い、その都度サービス内容の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	四季折々のイベントや個人の誕生日にはケーキを用意してお祝いしたり、散歩やドライブを楽しんでいただいている。		

グループホームカスタネット(秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや周辺地域の方、ボランティアの方の協力を得て、一人一人が安全で豊かな暮らしを楽しめる工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の往診にて健康診断と看護師に週に一度チェックを受け、二十四時間体制で対応していただいている。歯科も定期的に受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で手足の細かいところをチェックしてもらい指示を受け、緊急を要するときは臨時往診にて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師の判断にて入院した際、病院関係者と話し合い情報を交換し、利用者が安心して治療できる様に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際は、主治医より説明を受けた上でご家族の希望を聞き、職員も含めて今後の方針を決める。その後も利用者様の状態の変化に合わせて主治医、ご家族と相談しながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスの中で定期的に事故発生時の対応を職員間で確認している。その際、事例検討を踏まえてその発生の予防や発生後の対応について取り決めを行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、昼間と夜間それぞれを想定した避難訓練を実施している。訓練時は地域の方にも協力を得ながら行っている。また、連絡網を作成し、緊急時に直ぐに駆けつけられるように万全の体制が整っている。		

グループホームカスタネット(秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様と接する際には言葉遣いや態度に気をつけ、個人の尊厳を守るよう全職員が努めている。また職員間の申し送り等の伝達時には、利用者様のプライバシーに配慮し場所を変えたり、イニシャルを用いるなど工夫をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、まず利用者様の意向を伺い、支援する様心掛けている。例えば、レクリエーションの参加についても利用者様が参加されたくない場合はご本人の意思を尊重し、温かく見守る対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事、排泄等必ず利用者様の意向を伺い、拒否であってもその気持ちを受け止め寄り添う支援ができる様、全職員が努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴の際には衣服のコーディネートは利用者様の意向を伺い、常に整髪や衣服のの乱れがないかを配っている。定期的に出張理美容を利用し、ヘアカット・カラーを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立を掲示したり、料理の下ごしらえから盛り付け、配膳等利用者様それぞれの得意分野を担当していただき、食事中も楽しい会話やBGMにも気をつけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人の歯の具合や体調に応じた食事形態をとっている。食事量や水分摂取量は食事毎に記録し、過不足を把握し体調管理も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所で利用者様それぞれに応じた口腔ケアを支援している。かかりつけの訪問歯科の定期健診にて口腔内の健康状態を管理していただいている。		

グループホームカスタネット(秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助が必要な利用者様は、排泄管理表を作成し排泄パターンを把握した上で、一人一人のADLに応じた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食材を積極的に摂取し、水分補給をしっかりと行い便秘予防を心掛けている。毎日体操や散歩等の実施で運動不足を解消し健康管理に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の個々のニーズに応じた入浴介助を行い、気持ち良く入浴ができる様、浴室を清潔に保ち入浴剤や石鹸にも気配りをして、入浴中も楽しい会話を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に寝具を洗濯し布団を干し、気持ちよく眠れる環境を整えている。就寝時には利用者様それぞれの希望に添い照明の具合も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時の医師の説明と、薬剤師からの指導に従い、お薬リストの管理により全職員が利用者様の服薬内容を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の得意分野の家事を役割分担することで、それまでの生活歴を継続出来る様に支援している。また、ご家族から話を伺い、それまでの趣味や習慣を生活に取り入れる工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとにドライブや神社参詣、地元のイベントやお祭り等さまざまな外出を企画し、利用者様が四季の移ろいを感じて楽しんでいただける様努めている。また、利用者様それぞれの家族行事にも安心して出掛けられる様支援している。		

グループホームカस्ताネット(秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が出来る限り買物を楽しんでいただける様、職員が同行し見守りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご本人の希望があれば、電話での会話も楽しんでもらえるようにしている。手紙等も住所の記入をお願いして、交流の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った服装をしてもらうだけでなく、気候によってはエアコン等でホールや浴室、脱衣所の空調管理を行っている。夜間は常夜灯のみ点灯し、静かな環境になる様努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールにソファを設置し、お一人でくつろいだり、利用者様同士で談笑されたりしている。廊下のソファでは日向ぼっこをしたり、夕焼けを見たりと充実した空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は各利用者様にとっていちばん落ち着ける雰囲気になる様心掛けています。なじみの家具や仏壇などを配置したり、思い入れのある写真や絵を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前に表札をつけて、利用者様が居室を認識できる様にしている。トイレや洗面所等も同様に表示をつけて一目で分かる様配慮している。また必要な箇所に手すりを設置し、安全面にも配慮している。		